

さあ、翔べ光の中へ！

道標ない旅

～「自立」と「共生」を目指して～

南郷中学校

令和2年3月11日(特別号)

校長 益田 孝彦 875-9494

◆◆ 在校生代表の言葉 送辞 ◆◆

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。先輩方が胸を張って堂々と卒業証書を受け取る姿を想像すると、素敵だなど思うと同時に少し寂しさを感じます。今、私がこのように感じているのも今までの先輩方の存在があったからだと思います。

先輩方と初めて南郷中学校生として出会ったのは入学式の時でした。桜が少し散り始め、あたたかい陽だまりの中。

南郷中学校はどんなところなのだろうと緊張していた私たちの気持ちをたちまち明るくしてくれる光景がありました。それは南郷中学校の誇りの1つでもある校歌です。先輩方は口でこんな学校だと教えてくださるのではなく、行動で示してくださりました。1人1人が生き生きと、笑顔で歌っている姿を見て、聞いて感じて不安の“ふ”の字さえ出てこなくなるほど気持ちが高まりました。

やがて1ヵ月が経ち、やっと南郷中学校に慣れてきたと思った頃に体育祭がやってきました。先輩方の頼もしさを感じた行事でした。体育祭の取り組みを通して、後輩を引っ張る姿をたくさん見ました。

私たち2年生は現在、部活動や委員会を始め様々な組織で代替わりをし、メンバーを引っ張る役割を担っています。ただ、そのたびに感じるのは先頭に立つことの大変さ。今までどれだけ先輩方に頼りっぱなしだったのかをひしひしと感じました。しかし、先輩方は私たちの前では悩んでいるような素振りは見せず、とても輝いていました。私たちもそのような存在になれるように残された期間、一步一步前に進んでいきたいです。

やがて夏休みを終えてやってきたのが文化祭です。9月の下旬でしたが、まだまだ夏の勢いは収まらず、秋の気配はあまり感じられないような日々だった気がします。

やはりこの時でも先輩方は憧れの存在でした。自分たちもクラスや学年合唱を成功させることができ、嬉しかったのですが、先輩方の合唱は別格でした。思わず見とれてしまうほどでした。先輩方の今までの努力の結晶だと思うと同時に、来年の文化祭ではこれを越えなくてはならないという大きなプレッシャーを与えられた気もしました。また、私たちの学年は人数が少ないので、その壁も乗り越えなくてはなりません。ただそれを言い訳いやハンデなどにせず、絶対に先輩方の合唱を越えてみせます。

そのために必要なこと。それは仲間との協力が鍵となると思います。仲間との信頼関係をより高く築き上げていくこと。自分だけではなく仲間のことも視野に入れること。互いに思いやること。その多くが重なり初めて仲間との協力ができると私は思っています。

ですが私たち在校生にできていない課題としてまだ多くのことが残っています。ですからその一つ一つの課題にひたむきに向き合いながら、仲間との協力ができるようにしていきます。

そして理想の南郷中学校へ歩み出す時、仲間と協力をし、全員の心を1つに前へ進んでいきたいです。

最後に、先輩方と作ってきた思い出は、悲しいこと、辛いこと、それ以上に、楽しいこと、嬉しいこと、数え切れないほど多くありました。その思い出たちが先輩方の青春の1ページの1文字分だけでもいいので刻まれていたらと思います。

その思い出たちが、先輩方にとっても私たちにとっても明日への大きな活力となっていくと思います。

また遠い存在にはなってしまいますが、いつまでも私たちの憧れという事は変わりません。これからも先輩方の後輩で居させてください。そして後輩の中でも私たちが1番だと誇りを持って言ってもらえるように頑張っていくので遠くから見守ってください。今までありがとうございました。

2020年3月

在校生代表 生徒会長

◆◆ この紙面をお借りして、本年度学校評価の最終改善方を報告させていただきます。 ◆◆

※2/27 学校評議員会兼学校関係者評価委員会が開かれました。そこで承認された来年度に向けての「最終改善方策」を紹介致します。

(1) 新しい時代に必要な資質・能力を育む学校

【最終改善方策】

- 道徳資料を精査し、実効性のある道徳年間計画及び道徳資料年間活用計画を立てて、次年度に臨む準備を完了しておくとともに、学年差が出ないように学校全体で推進していく。
- 次年度の研究発表に備えて、校内研究の計画をしっかりと立て、校内研究・学びづくり推進事業を軸に、南郷中で実施される日常的な学習に、アクティブラーニング的手法が一層取り入れられるよう、その推進に努める。また、学び方においては、小・中の連携も意識していく。
- 参考になる授業情報などを研究推進委員会から積極的に紹介し、find アクティブラーナーの充実した活用を、効率的に推進する。また、校内研究にも find アクティブラーナーのコンテンツを活用していく。
- iPad やタブレットが宝の持ち腐れにならないよう、その有効利用を模索していく。

(2) 豊かな心を育み、信頼でつながった学校

【最終改善方策】

- 教職員全員が、「自立」「共生」の学校目標に向けて努力できるよう、「チーム南郷」を意識して行動する。また、相談しやすいの評価項目について、同じ傾向がある長柄小学校との連携を視野に入れて、相談しやすい環境を構築していく。
- 「後ろ姿の教育」そして「相談しやすい学校・教師」を意識し、行動していくように教職員全体で心がけていく。特に日常生徒に投げかける言葉や、生徒のいない場面でかわす教師同士の会話などでの、言葉遣いに一層留意していくことを共通課題とする。
- ねらいをもったお弁当時間のクラス訪問を次年度も継続するなど、SC・相談員が今以上に相談活動が出来るような環境作りに努める。

(3) 地域を愛し、地域から愛される学校

【最終改善方策】

- 職員室の環境改善から、「チーム南郷」を実効性のあるものに高めていく。
- FGC活動等、本校で行われている総合的な学習の時間の内容を精査し、「体験的な学習」はもとより、「探究的な学習」に質的な改善を図れるよう研究を進めていく。
- 学校だよりや学校HPの積極的な活用を継続する。
- コミュニティスクール化を目指した実効的な準備を進めていく。

(4) いじめ防止に向けた対策

【最終改善方策】

- 「本校にはいじめの実態はない」と安心するのではなく、アンテナをしっかりと張り、苦しんでいる子の声をきちんとキャッチし、適切に支援できる学校環境を創っていく。
- Eと判断する保護者数の減数化を大きな目標に、学校の指導が理解されるよう努力する。
- SC、相談員の出席を得て、引き続き、支援委員会で適切な状況把握に努める。

本年度の教育活動に対し、深いご理解ご支援を頂きましたことを、心より感謝申し上げます。来年度の南郷中学校の教育活動に対しましても、引き続きご支援頂きますよう、心よりお願い申し上げます。